

えんがわ

第50号

2011年5月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
Tel.046-852-1182

避難所での出会い

池袋駅から夜行バスで釜石駅前に朝八時到着。駅前のコンビニは明るく、物も豊富でここが被災地なのかしらと思えました。駅前から乗ったタクシーの運転手さんが駅から先は状況が全然違う、会社も流されて今は携帯電話で連絡しあっている仕事していると聞き、震災の大きさを感しました。私達が滞在した釜石市民体育館には、二百三十名程の方が避難されていました。私は他に釜中体育館、中妻体育館の方々の血圧測定や話をお聞きしたりしていました。避難所の方々は、自分自身も水に浸かったり、水も電気も無い所で過ごす

れたり、ヘリコプターで救助されたり、家が流されたりしているのに、「あの人へは九死に一生を得て大変な思いをしたんだよ」と他人への思いやりに溢れています。「物は無くなっちゃったけど子供が小学生の頃を思い出した」と話をしてくれたり、狭い所で十分でない環境の所にいるのに、私達に「寒くて大変でしょ、風邪引かないでね」と声をかけてくれ、連日の訪問を心待ちにして頂きました。被災された方々が一日も早く安心して平和で暮らせるようにと祈るばかりです。

衣笠病院 副看護部長
中村晃子

えんとくがわちんぞく医療地域連携

大きな病院の医師をかかりつけ医として持ちたいと希望する人も少なくありません。専門医のいる病院での治療が必要な人もいます。が、風邪や腹痛などの軽い病気で医療機関を受診することが多い人は、すぐにかかれて待ち時間の短い診療所・クリニックの方が良いと思われれます。さらに大きい病院や大学病院の場合には、医師の転勤も考えられ費用面でも余分な出費が考えられます。たとえば紹介状がない場合、初診料に加え「初診時特定療養費」を自己負担しなければなりません。この金額は病院によつ



て自由に決められます。およそ千五百円から五千円くらいまで様々です。また病院によっては紹介状がないと、当日診療が困難な場合もあります。

普段から自分の健康状態を把握して、精密検査や入院が必要な場合、専門医のいる大きな病院に紹介してくれる医師、それが「かかりつけ医」です。病気に關することなら何でもすぐに相談できる医師が家の近くにいれば、これほど心強いことはありません。

衣笠病院グループ
地域連携課長 小川芳基

衣笠病院グループでは少しずつ被災地の支援を行なっています。ご利用者様のご関係の方にもたくさん東北の方がいらつしやるとよく耳にします。一日も早い復興をお祈りいたします。